

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025 年 10 月 1 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 京都大学大学院理学研究科化学専攻

職 名 教授

氏 名 依光 英樹

助 成 の 種 類	令和 7 年 度 ・ 国際会議開催助成		
国 際 会 議 名	第22回有機合成指向有機金属化学国際会議 22nd IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (略称:OMCOS-22)		
開 催 期 間	2025 年 9 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 5 日		
開 催 場 所	ホテルグランヴィア京都 〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下ル JR京都駅中央口		
参 加 者	総 数 783名	内 訳 国内参加者 425名 海外参加者 308名 企業 展示 28名 運営スタッフ 22名	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☐ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	事業に要した経費総額	53,395,928 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 日本学術会議、吉田科学技術財団、池谷科学技術振興財団など	
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場費	19,900,000	1,000,000
	人件費	1,619,320	
	旅費	370,438	
	招請関係費	12,287,692	
	会合関係費	10,716,995	
庁費	8,501,483		
合計	53,395,938		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) このたびは本学会に対し、多大なるご助成を賜り、誠にありがとうございました。本国際会議は、国内外から約800名の研究者が参加する大規模な会議であり、総額約5,300万円の運営費を要しました。ご支援いただきました助成金は、全額を会場費に充当させていただきました。これにより、学会の円滑な運営ならびに参加者の研究交流の場を確保することができました。国際会議の開催にあたり会場費は特に大きな負担となる項目であるため、今回のご助成は非常に有意義であり、実行委員会一同、心より感謝申し上げます。今後も、本事業により多くの若手研究者や国際的な研究者が参加できる学术交流の場が支えられることを強く期待しております。		

成果の概要 / 依光 英樹

会議名 :

22nd IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry
Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS-22)

(和文名 : 第22回有機合成指向有機金属化学国際会議)

主催者 : 第22回有機合成指向有機金属化学国際会議組織委員会

共催者 : 国際純正・応用化学連合 (IUPAC)

日本学術会議

公益社団法人 日本化学会

協賛者 : 公益社団法人 有機合成化学協会

一般社団法人 近畿化学協会

公益社団法人 日本薬学会

会場 : ホテルグランヴィア京都

会期 : 2025年9月1日～9月5日

1. 開催の概要および成果

第22回有機合成指向有機金属化学国際会議(略称: OMCOS-22)が2025年9月1日から5日までの5日間、ホテルグランヴィア京都にて開催された。本会議開催中、国内外からおよそ800名の化学者が一堂に会し、有機金属を用いる有機合成の様々な分野に関する活発な討論が行われた。一般参加者の内訳は、国内の参加者425名、国外からの参加者308名で、26カ国と1地域からの参加があった。本会議は、次のような日程で開催した。最終日翌日には市民公開講座を開催することによって、研究成果を直接的に社会へ還元する取り組みを行った。

日程	午前	午後	夕刻
9/1 (月)		開会式・特別講演	レセプション
9/2 (火)	特別講演・招待講演	招待講演・口頭発表	ポスター発表
9/3 (水)	特別講演・招待講演	エクスカージョン	
9/4 (木)	特別講演・招待講演	招待講演・口頭発表	ポスター発表・バンケット
9/5 (金)	特別講演・招待講演・閉会式		
(9/6 (土))		(市民公開講座)	

それぞれの分野・プログラムにおいて世界的に著名な研究者を招待し、最新の研究成果の公表と討論、さらには各分野の今後目指すべき方向性についての提言などが行われた。特別講演としてノーベル化学賞受賞者の Ben Feringa 教授 (グローニンゲン大学、オランダ) をはじめ7名、招待講演として鳶巣守教授 (大阪大学) をはじめ20名の研究者が講演を行った。さらに1997年に創設された国際賞「OMCOS Award」の表彰およ

び受賞講演が行われた。今年度は受賞者として **Josep Cornella** 教授が選ばれ、受賞講演ではビスマス錯体を触媒とする分子変換に関する最新の研究成果が紹介された。またポスター発表については 456 件の応募があり、その中から特に優れた研究 42 件については口頭発表へのアップグレードが行われた。

学会最終日の翌日には、市民公開講座「炭素と金属で拓く未来社会」がキャンパスプラザ京都にて行われた。大木靖弘教授（京都大学）、阿部竜教授（京都大学）、北川進特別教授（京都大学）の講演がおこなわれ、85 名の市民が参加した。

いずれの講演・プログラムにおいても活発な議論が交わされ、本会議は成功裏に終了した。

最後になりましたが、貴財団から本会議開催のための助成金の採択を受けましたことについて、ここに厚く御礼申し上げます。

2. 写真

開会式の様子



OMCOS Award 受賞式



市民公開講座の様子

